

澤田兼吉：—日本産 *Colus* 属の種類に就て (鳥取農學會報第 4 卷第 3 號
第166-173 頁昭和 8 年 6 月)

Colus 属又は後に LLOYD 氏が新設した *Pseudocolus* 属の菌類は極めて稀に発見せられるものであるが日本産の種類としては安田篤氏の發表せる *Pseudocolus Rothae* (FISCH.) 及び川村清一氏發表の *Pseudocolus javanicus* PENZ. の 2 種のみが知られてゐた。著者は臺灣産 *Colus* 属菌類 2 種につき研究した結果日本産のものは *Colus Schellenbergiae* SUMSTINE と *Colus pentagonus* (BAILEY) SAWADA との 2 種のみなることを知るに至つた。

川村氏發表の *Pseudocolus javanicus* は瓜哇産の原種とは異り安田氏發表の *Pseudocolus Rothae* に近似し、然るに後者は FISCHER 氏の *Colus Rothae* (FISCH.) SACC. et TRAV. とは異り却つて北米産の *Colus Schellenbergiae* SUMSTINE と同一種であり、著者採集の臺灣産のものはまさに安田、川村兩氏の種類に一致する。又著者採集の臺灣産の他の一品は濠洲産の *Mutinus pentagonus* BAILEY と同一種であり、本菌は *Mutinus* 属よりは *Colus* 属に入れるべきもので、さきに著者の發表せる臺灣産の一新種 *Mutinus quadrigonus* SAWADA は本種の一畸形にすぎない、と論じて大體次の如く日本産 *Colus* 属菌類を整理せられた。

***Colus Schellenbergiae* SUMSTINE**

Pseudocolus Rothae YASUDA in Tokyo Bot. Mag. XXX, p. 298 (1916).

Pseudocolus javanicus (non PENZ.) KAWAMURA, Nippon Kinrui Dusetu, no. 134, Fig. no. 2 (1929).

サンコタケ (三鈹茸)、イカリタケ (錨茸)

日本 (東京、仙臺、臺北)、北米合衆國

***Colus pentagonus* (BAILEY) SAWADA, comb. nov.**

Mutinus pentagonus BAILEY

Mutinus quadrigonus SAWADA in Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa, XXI, p. 331 (1931).

ゴリヤウタケ (五稜茸) (新稱)

日本 (臺北)、濠洲

(田川 基二)

館脇操：—中部千島の植物地理 (北海道帝國大學農學部紀要第 29 卷第 5 號) M. TATEWAKI: The Phytogeography of the Middle Kuriles, in Journ. Facult. Agric. Hokkaido Imp. Univers. Vol. XXIX, pt. 5. (1932) pp. 191-363, t. I-VII.

まづ中部千島の植物を南から得撫島、新知島、計吐夷島、羅處和島、松輪島の順